

2020年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月6日

上場取引所 東

上場会社名 日精エー・エス・ビー機械株式会社

コード番号 6284 URL <http://www.nisseiasb.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 C00 (氏名) 宮坂 純一

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 容貝 泉夫 TEL 0267-23-1560

四半期報告書提出予定日 2020年8月7日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年9月期第3四半期の連結業績（2019年10月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第3四半期	17,439	△6.1	2,615	△0.7	2,403	△11.2	2,274	8.2
2019年9月期第3四半期	18,581	△9.0	2,633	△32.2	2,707	△32.4	2,101	△40.3

(注) 包括利益 2020年9月期第3四半期 1,484百万円 (△15.3%) 2019年9月期第3四半期 1,751百万円 (△8.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第3四半期	151.69	-
2019年9月期第3四半期	140.14	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第3四半期	56,044	29,414	52.4
2019年9月期	45,852	28,829	62.8

(参考) 自己資本 2020年9月期第3四半期 29,394百万円 2019年9月期 28,814百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	-	0.00	-	60.00	60.00
2020年9月期	-	0.00	-	-	-
2020年9月期(予想)	-	-	-	60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年9月期の連結業績予想（2019年10月1日～2020年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	△4.3	3,900	△9.4	3,700	△11.8	3,400	7.8	226.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記」「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年9月期3Q	15,348,720株	2019年9月期	15,348,720株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2020年9月期3Q	357,048株	2019年9月期	357,018株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2020年9月期3Q	14,991,673株	2019年9月期3Q	14,996,917株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本書に記載した業績予想数値等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は、様々な要因により異なる場合があります。業績予想等の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報)	9
3. 補足情報	11
受注及び販売の実績	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2019年10月1日～2020年6月30日)の世界経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、世界各地で経済活動が縮小した結果、景気が急速に悪化しました。我が国経済も同様に、緊急事態宣言の発令を受け、消費や生産活動が停滞したため、雇用環境や企業収益が急激に悪化しました。現在は、多くの国で経済活動再開に舵を切りつつあるものの、足元では新興国を中心に感染拡大が続いており、景況感は依然として先行き不透明な状況にあります。

当社グループの属するストレッチブロー成形機業界におきましては、世界的なサプライチェーンの混乱や、大規模展示会の開催中止など、事業活動への一時的なマイナス影響はあるものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、医薬品や衛生品などのウイルス対策用品や、食料・飲料及び日用品などの生活必需品といった、エッセンシャル・ビジネスとしての需要は底堅いものがあります。

こうした環境下、当社グループは「人と社会に豊かさを提供する」「高い技術、サービスで恒久的な存続を追求する」との経営理念に基づき、中長期的な成長発展方針を継続し、事業規模の拡大を見据えた各種戦略的施策の展開に注力しました。

技術面では、各種技術開発に積極的に注力しております。当社の得意領域である、高品質・高付加価値生産が特徴のワンステップ成形機の優位性を高める「ゼロ・クーリングシステム」の更なる進化を図り、既存製品の機能向上に努めました。また、ツーステップ市場でのシェア拡大を企図するため、高品質・高付加価値の強みを活かしながら、量産性も追求する新型機の開発を強化しております。さらに、容器用途の多様化を可能とする画期的な二層成形法を確立し、新型機を開発しました。これは、2種類の材料の組み合わせや使用比率等を容器用途に応じて変更できる技術で、内外層に別々の材料や外層にリサイクル材料を使用することで、容器の物性強度やデザイン性、環境性を高めることができる非常に有望な技術です。

販売面では、ドイツで開催された世界最大のプラスチック展示会(K2019)に出展し、ゼロ・クーリングシステム搭載機や環境対応技術を披露することで、顧客から高い評価を得ました。また、高品質な中小型容器の大量生産を得意とする1.5ステップの大型機が順調に受注を獲得しました。さらに、安全で衛生的なプラスチック容器に対する需要の高まりを受け、世界中から引き合いが増加しており、顧客と市場の幅を着実に広げつつあります。

生産面では、当社の主力工場のあるインドにおける全国的なロックダウンを受け、インド工場での生産活動を約1か月間停止しましたが、現在は操業を再開し、出社人数に制限のある中で改善活動を進めた結果、稼働率は平常レベルまで回復しております。また、前期から進めておりますインド工場への金型生産設備の追加導入に関しましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールが遅延したものの、年内完了を目途に導入作業を再開しております。

環境対応技術では、「3R+Renewable」への取り組みを継続し、「材料使用量の削減」、「PETボトルリユースの提案」、「リサイクル材料の使用促進」、「バイオプラスチックのボトル成形」などのソリューションを提供することで、環境配慮型の技術提案を強化しております。

また、顕彰としては、経済産業省認定の2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」に選定されました。これは、世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や、サプライチェーン上で重要な部素材等の事業を有する企業を経済産業省が選定するもので、当社の業界のリーディングカンパニーとしての高いシェアと利益率、技術力等が評価されたものです。これにより、更なる知名度向上や国内外での事業展開に対しての経済産業省のサポートが期待できます。これを機に、今後もより一層、グローバル企業としての企業価値向上に努めてまいります。

販売成績につきましては、上述したドイツの展示会(K2019)での高い評価に加え、安全で衛生的なプラスチック容器に対する需要の高まりを受け、欧米を中心に引き合いが好調に推移した結果、当期の受注高は24,502百万円(前年同期比123.3%)と過去最高水準となりました。同様に、当期末の受注残高は15,829百万円(前年同期末比139.3%)を確保し、過去最高を記録しました。一方、売上高については、インド工場の一時的な生産停止による出荷停滞及び為替が円高傾向で推移した結果、17,439百万円(前年同期比93.9%)となりました。

利益面につきましては、前年同期に計上した工場集約の一過性費用などの減少等により、売上総利益は8,361百万円(同102.3%)と増益になりました。一方、研究開発費及び上述の展示会費用の増加等により営業利益は2,615百万円(同99.3%)、訴訟関連費用の増加により経常利益は2,403百万円(同88.8%)とそれぞれ減益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、インドの税制改正の影響による繰延税金負債の減少により2,274百万円(同108.2%)と増益となりました。

当第3四半期連結累計期間における損益の状況は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	売上高	売上総利益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
当第3四半期	17,439	8,361	2,615	2,403	2,274
前第3四半期	18,581	8,177	2,633	2,707	2,101
前年同期比	93.9%	102.3%	99.3%	88.8%	108.2%

製品別売上高状況

(単位：百万円)

	ストレッチブロー成形機	金型	付属機器	部品その他	合計
当第3四半期	9,247	4,837	1,157	2,197	17,439
前第3四半期	9,548	5,558	1,244	2,230	18,581
前年同期比	96.8%	87.0%	93.0%	98.5%	93.9%

製品別の売上高状況につきましては、ストレッチブロー成形機が9,247百万円（前年同期比96.8%）、金型が4,837百万円（同87.0%）、付属機器が1,157百万円（同93.0%）、部品その他が2,197百万円（同98.5%）とそれぞれ減収となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

セグメント（地域）別売上高状況

(単位：百万円)

	米州	欧州	南・西アジア	東アジア	合計
当第3四半期	5,869	3,595	5,070	2,903	17,439
前第3四半期	4,595	3,654	6,779	3,552	18,581
前年同期比	127.7%	98.4%	74.8%	81.7%	93.9%

セグメント（地域）別利益

(単位：百万円)

	米州	欧州	南・西アジア	東アジア	合計
当第3四半期	885	418	128	2,778	4,211
前第3四半期	520	540	816	2,376	4,254
前年同期比	170.1%	77.4%	15.7%	116.9%	99.0%

① 米州

消毒液や生活必需品等の容器需要の高まりを受け、北米及び中米市場での引き合いが回復したため、地域全体の売上高は5,869百万円（前年同期比127.7%）と増収となりました。セグメント利益も、売上高の増加及び前年同期に売上債権に対して計上した貸倒引当金が当期において戻入となったことにより、885百万円（同170.1%）と増益となりました。

② 欧州

米州同様、引き合いは好調なもの、売上においては為替がユーロ安で推移したことにより、地域全体の売上高は3,595百万円（前年同期比98.4%）と減収となりました。セグメント利益は、展示会費用の増加等により418百万円（同77.4%）と減益となりました。

③ 南・西アジア

主要国でのロックダウン等の影響により、各国市場が低調に推移したため、地域全体の売上高は5,070百万円（前年同期比74.8%）と減収となりました。セグメント利益も、売上規模の減少や、インド工場の生産停止等により、128百万円（同15.7%）と減益となりました。

④ 東アジア

主要市場の日本と中国で減収となり、地域全体の売上高は2,903百万円（前年同期比81.7%）と減収となりました。一方、セグメント利益は前年度に計上した工場集約の一過性費用の減少、グループ会社向けの採算性の向上等の影響により、2,778百万円（同116.9%）と増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

(単位：百万円)

	流動資産	固定資産	流動負債	固定負債	純資産
当第3四半期	39,808	16,235	11,389	15,240	29,414
前連結会計年度	31,006	14,845	7,846	9,175	28,829

当第3四半期連結会計期間末（以下、当期末）の流動資産は、前連結会計年度末（以下、前期末）と比べ8,802百万円増加し、39,808百万円となりました。また、固定資産は、前期末と比べ1,389百万円増加し、16,235百万円となりました。この結果、当期末の資産合計は、前期末と比べ10,192百万円増加し、56,044百万円となりました。

流動負債は、前期末と比べ3,542百万円増加し、11,389百万円となりました。また、固定負債は、前期末と比べ6,065百万円増加し、15,240百万円となりました。

純資産は、前期末と比べ584百万円増加し、29,414百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症の拡大が当社グループに与える影響について合理的に算定することが困難であったことから、2020年5月13日公表の「2020年9月期 第2四半期決算短信」では業績予想を未定としておりました。当社の主力工場であるインド工場での生産活動再開や安全で衛生的なプラスチック容器の需要の高まりなどの状況変化を受け、現時点で入手可能な情報をもとに業績予想を算定しましたので公表いたします。

なお、業績予想につきましては今後の新型コロナウイルス感染症の動向次第で変動する可能性があります。開示すべき重要な事項が発生した場合には速やかに業績への影響をお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,563	17,858
受取手形及び売掛金	6,076	5,410
商品及び製品	2,146	1,950
仕掛品	7,366	6,753
原材料及び貯蔵品	5,510	6,554
その他	1,432	1,360
貸倒引当金	△88	△79
流動資産合計	31,006	39,808
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,283	5,027
機械装置及び運搬具(純額)	4,459	4,167
土地	1,165	1,165
その他(純額)	776	3,943
有形固定資産合計	11,684	14,303
無形固定資産	127	114
投資その他の資産		
投資有価証券	191	164
その他	2,950	1,763
貸倒引当金	△108	△111
投資その他の資産合計	3,033	1,816
固定資産合計	14,845	16,235
資産合計	45,852	56,044

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,286	2,770
短期借入金	1,902	1,940
未払法人税等	249	179
前受金	1,671	3,594
賞与引当金	380	562
役員賞与引当金	31	32
その他	1,325	2,309
流動負債合計	7,846	11,389
固定負債		
長期借入金	7,935	13,493
役員退職慰労引当金	419	447
退職給付に係る負債	666	715
その他	153	584
固定負債合計	9,175	15,240
負債合計	17,022	26,630
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,860	3,860
資本剰余金	3,196	3,196
利益剰余金	24,346	25,720
自己株式	△300	△300
株主資本合計	31,103	32,477
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26	△0
為替換算調整勘定	△2,316	△3,083
その他の包括利益累計額合計	△2,289	△3,083
非支配株主持分	15	20
純資産合計	28,829	29,414
負債純資産合計	45,852	56,044

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
売上高	18,581	17,439
売上原価	10,404	9,077
売上総利益	8,177	8,361
販売費及び一般管理費	5,543	5,745
営業利益	2,633	2,615
営業外収益		
受取利息	112	107
受取配当金	6	7
受取手数料	137	124
その他	49	80
営業外収益合計	306	320
営業外費用		
支払利息	25	32
為替差損	119	205
遊休資産諸費用	79	88
訴訟関連費用	—	195
その他	8	11
営業外費用合計	233	532
経常利益	2,707	2,403
特別利益		
固定資産売却益	11	23
補助金収入	116	—
保険差益	—	419
特別利益合計	127	442
特別損失		
固定資産売却損	1	—
新型コロナウイルス感染症による損失	—	317
特別損失合計	1	317
税金等調整前四半期純利益	2,833	2,529
法人税、住民税及び事業税	583	624
法人税等調整額	139	△373
法人税等合計	722	250
四半期純利益	2,111	2,278
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,101	2,274

(四半期連結包括利益計算書)

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	2,111	2,278
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△50	△27
為替換算調整勘定	△309	△767
その他の包括利益合計	△359	△794
四半期包括利益	1,751	1,484
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,742	1,479
非支配株主に係る四半期包括利益	8	4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」及び米国会計基準 ASU第2016-02「リース」の適用)

在外連結子会社において、IFRS第16号「リース」及び米国会計基準 ASU第2016-02「リース」を第1四半期連結会計期間より適用しています。

これにより、借手のリースは、原則としてすべてのリースについて資産及び負債を認識しています。当該会計基準の適用にあたっては、その経過的な取扱いに従って、当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間の四半期連結貸借対照表において、「有形固定資産」の「その他」が1,892百万円、「流動負債」の「その他」が101百万円及び「固定負債」の「その他」が336百万円増加し、「流動資産」の「その他」が17百万円及び「投資その他の資産」の「その他」が1,439百万円減少しております。なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	米州	欧州	南・西アジア	東アジア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,595	3,654	6,779	3,552	18,581	—	18,581
セグメント間の内部 売上高又は振替高	32	5	4,721	9,108	13,868	△13,868	—
計	4,628	3,660	11,500	12,660	32,450	△13,868	18,581
セグメント利益	520	540	816	2,376	4,254	△1,620	2,633

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,620百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,264百万円、セグメント間取引消去643百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	米州	欧州	南・西アジア (注) 1	東アジア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,869	3,595	5,070	2,903	17,439	—	17,439
セグメント間の内部 売上高又は振替高	45	20	4,345	8,835	13,246	△13,246	—
計	5,914	3,615	9,416	11,738	30,685	△13,246	17,439
セグメント利益	885	418	128	2,778	4,211	△1,595	2,615

- (注) 1. 南・西アジアのセグメント利益には、新型コロナウイルス感染症による損失317百万円が含まれております。当該損失は、インド国によるロックダウン命令により、インド子会社工場において、一定期間の操業停止を含む異常な操業度の低下が発生したため、当該影響額を特別損失として計上したものです。なお当該特別損失317百万円については、セグメント利益の調整額において、調整を行っております。
2. セグメント利益の調整額△1,595百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,535百万円、セグメント間取引消去622百万円、及び新型コロナウイルス感染症による損失317百万円の特別損失への振替が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の最終顧客の販売地域別(顧客の所在地を基礎とした地域的近接度により区分)の「米州」、「欧州」、「南・西アジア」、「東アジア」及び「日本」の5区分から、当社及び子会社の所在地を基礎とした地域別の「米州」、「欧州」、「南・西アジア」及び「東アジア」の4区分に変更しております。

この変更は、顧客の一層のグローバル化及び組織再編の進展などの外部環境の変化により、当社及び子会社の所在地を基礎とした地域別のセグメントにより区分することが、当社グループの経営管理体制をより適切に表示するものと判断したことによるものであります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 補足情報

受注及び販売の実績

① 受注実績

製品別	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)		前年同期比	
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (%)	受注残高 (%)
ストレッチブロー成形機	10,314	6,322	14,949	10,314	144.9	163.1
金型	5,960	4,081	5,670	4,343	95.1	106.4
付属機器	1,371	864	1,662	1,110	121.2	128.4
部品その他	2,219	95	2,219	61	100.0	63.7
合計	19,865	11,364	24,502	15,829	123.3	139.3

② 販売実績

製品別	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)		前年同期比 (%)
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
ストレッチブロー成形機	9,548	51.4	9,247	53.0	96.8
金型	5,558	29.9	4,837	27.8	87.0
付属機器	1,244	6.7	1,157	6.6	93.0
部品その他	2,230	12.0	2,197	12.6	98.5
合計	18,581	100.0	17,439	100.0	93.9